

岩手社保協ニュース

2020年10月5日(月) No10 (通刊109号)

〒020-0015

盛岡市本町通 2-1-36 浅沼ビル 6F

TEL・FAX 019-654-1669

E-mail i-shahokyo@aurora.ocn.ne.jp

新規感染者発生後、感染症対策で知事に要請 (通算3回目) 医療現場に財政支援を

岩手民医連、岩手医労連、県社保協の3団体は9月25日、達増県知事に新型コロナ感染防止と医療を守る対策を求めて要請を行いました。

県の出席者は保健福祉部医療政策室の工藤啓一郎医療政策室長、三浦節夫技術主幹兼感染症担当課長、昆野岳晴医療政策担当課長、保健福祉企画室の阿部匡寛特命課長の4名。岩手民医連から遠藤洋史事務局長、県医労連から中野るみ子委員長、五十嵐久美子書記長、いわて労連から中村健事務局長、県社保協から鈴木事務局長が参加しました。

最初に、3団体から知事宛要請書を工藤啓一医療政策室長に手交しました。

テレビ3社、新聞2社のマスコミ取材がありました。

現場実態を踏まえた対策を！

岩手医労連の中野るみ子委員長は、要求書の内容は8月に行った県内での緊急実態調査の結果と関係団体の要求をまとめた内容だと説明。現場の実態を踏まえて対策を強めてほしいと語りました。

岩手医労連の五十嵐久美子書記長は、県のPCR検査体制の拡充、減収補てんなど医療機関への財政支援、医師・看護師・医療技術職の増員、県民の不安の払しょく、「コロナ」差別の解消などに取り組むべきだと強調しました。

国に対しては、医師・看護師・介護職員の大幅増員、従事者の生活を守る緊急の財政措置と抜本的な診療報酬・介護報酬の引き上げを求めて欲しいと要望。保健所の増設と保健師の増員、公立・公的病院の再編統合計画の中止を迫るべきだと強く指摘しました。



県保健福祉部工藤医療政策室長(右端)に要請書を手交【左から遠藤、五十嵐、鈴木、中野の各氏】

民医連の遠藤事務局長は、全国民医連調査では、経営が苦しくなったが80%。介護施設の39%が融資(総額で246億円)と経営は厳しいと訴えました。

県社保協の鈴木事務局長は、コロナ禍のもとで社会保障の脆弱性が明らかになった。病院経営が大変な時に、国からの財政支援が遅れている。全国知事会からいっそうの支援要請が必要だ。同時に県や自治体としての病院経営に対する支援を求めたい。

また、県内のコロナ感染症患者は23人、9月は新規患者が出ていないことは、県のコロナ対策で抑え込んでいるということではないか。引き続き、感染症対策のために努力してほしいと訴えました。

医療体制、検査体制について

工藤医療政策室長は、次のように述べました。

◆医療体制に関して、コロナ禍のもと一般医療体制に影響が出るなど苦慮しているが、そうした状況を踏まえて対応していきたい。

◆検査体制について、「行政検査」を実施している。

国からも早期に患者を見つける対策を強化し、8月下旬には、職員や入所者などへの定期的検査をするようにと国の方針が出ている。PCR検査の実施では疑陽性の問題があるので慎重に対応したい。1つ目は、帰国者・接触者相談センターは、名称を変更してなじみやすくしたい。2つ目は二次医療圏ごとに調整をすすめ地域外来センターを設置、3つ目はかかりつけ医や開業医も含めた抗原検査（キッド）をインフルや無症状者を除いて対応していく。

◆医療機関への財政支援は、貸付・融資など行っており、全国知事会を通して国へ要望を行っている。

◆スタッフを含めた体制については課題となっていることは認識している。ピーク時は入院ベッドを350床確保、無症状者のためのホテル等は300室確保。二次医療圏ごとに対応をしていきたい。



医療・福祉施設

クラスター発生時医療支援チーム派遣

岩手県新型コロナウイルス感染症医療体制検討委員会

9月11日、第5回岩手県新型コロナウイルス感染症医療体制検討委員会が行われました。

国は8月28日、新型コロナウイルス感染症対策本部決定の「新型コロナウイルス感染症に関する今後の取組」を各都道府県に通知し、各市町村への周知を促しました。今回の県の委員会は、国の通知も踏まえ岩手県としての対応について協議しました。

委員会では、医療及び福祉施設において、クラスターが発生した場合に、感染制御の専門家で構成する「いわて感染制御支援チーム（ICAT）」のみならず、施設と行政、医療機関等との関係機関の調整を行う「(仮称)いわて医療福祉施設等医療支援チーム」を入院等搬送調整班の下に設置し、派遣することにより、医療を必要とする者のスムーズな搬送等に繋げる体制の構築を進めるとしています。

また、社会福祉施設等における感染防止に向けた取組のチェックリストを作成し、特別養護老人ホーム、障害者支援施設等において自己点検を行い、点検結果を確認のうえ、不足の点については保健所への相談により改善に努めるとしています。(検討委員会の内容は県ホームページに掲載されています)

| | フェーズ0 【未発生期】 | フェーズ1 【発生初期】 | フェーズ2 【発生拡大期】 | フェーズ3 【まん延期】 |
|-------------------------|----------------------|-----------------|---|---|
| 指標 (感染症指定医療機関等の利用状況) | すべての医療機関の感染症病床が利用できる | 感染症病床に余裕がある | 一部の医療機関の感染症病床が満床となった又は県内の半数の感染症病床に患者を収容している状況 | すべての医療機関の感染症病床が満床となった ・重点医療機関等の病床の利用が進んだ状況 |
| 経過日数 | — | 1～16日目 | ～22日目 | 23日目以降 ※ピークは42日目 |
| 全療養者 | 0人 | 1～30人 | ～66人 | ～最大379人 |
| 軽症者 | — | 1～13人 | ～26人 | ～最大113人 |
| 入院患者 | — | 1～17人 | ～40人 | ～最大266人 |
| (重症) | — | (1～3人) | (～6人) | (～最大39人) |
| 確保病床 | 150床 | 150床 | 250床 | 350床 |
| 軽症～中等症 | 130床 | 130床 | 220床 | 305床 |
| 重症 | 20床 | 20床 | 30床 | 45床 |
| 宿泊療養部屋数 | 85室 | 85室 | 85室 | 300室 |
| 病床等計 | 235床 | 235床 | 335床 | 650床 |

いわての介護を良くする会総会 新型コロナによる困難をのり越え、 人権が保障される介護の実現を

困難をのり越え、ともに声をあげよう

岩手の介護を良くする会は、9月24日午後2時からアイーナにおいて総会を行いました。

当初4月に予定していましたが新型コロナウイルス感染症の拡大により延期していました。密を避け昨年の半分の25名が参加しました。



鈴木幸子共同代表

鈴木幸子共同代表は、主催者を代表して、次のように挨拶しました。

「新型コロナの影響で、介護現場では介護報酬の引き下げにより深刻になっていた介護事業所の経営悪化や人手不足に拍車がかかっている。そうした中で、来年春に行われる介護保険制度の改定、報酬改定の議論は着々と進んでいる。基本報酬の引き上げを望む声が上がっている一方で、経済界は報酬引き上げをけん制している。先日は、総合事業の対象を

要介護5まで拡大するという『省令改正』案が示されたが、介護保険制度が社会保障からかけ離れていくような中身ばかりだ。市町村では第8期介護保険計画の策定の真ただ中であり、利用者、家族、事業所と一緒に声をあげていくべきではないか。新型コロナウイルス感染症による困難をのり越え、私たちの命と生活が守られ、人権が保障される介護を実現するために声をあげ、運動をすすめましょう」

総会は、2019年度の活動報告と会計報告、2020年度の取組みについて提起され、拍手で承認されました。



いわての介護を良くする会 2020年度の取組み

- ◎介護をめぐる課題をより多くの方々と共有できる場を作ります。
(お住いの地域で学習会や介護カフェを一緒に開催しましょう)
- ◎総選挙が行われる際は、候補者や政党にアンケートを実施します。
(お住まいの地域でアンケートに取り組み、結果をお知らせしましょう)
- ◎自治体と懇談しながら実態を把握し、また、私たちの声を届けます。
(お住いの地域で新型コロナウイルスの感染対策、介護保険料や総合事業の状況、介護人材確保の状況などを、自治体に聞きながら私たちの要望も伝えていきましょう)
- ◎介護の日(11月11日)アピールを行います。
(介護の仕事のやりがい、魅力を発信しながら、介護職員の処遇改善、介護保険制度改善の必要性を様々な形でアピールしましょう)

基調講演

「人手不足の現場でコロナと向き合ってみたエトセトラ・・・」

太田宣承氏 (社会福祉法人光寿会 特別養護老人ホーム光寿苑 施設長)

基調講演は、岩手の介護を良くする会の共同代表でもある太田宣承氏が、コロナ禍のもと自ら特養の施設長として働いている現場での、お年寄りやその家族、介護スタッフとの人間模様と教訓。さらにはコロナ禍で露呈された人間の实相まで迫り、あっといふ間の1時間30分でした。慢性的な人手不足の中で職員募集をしても集まらず、やむにやまれず施設長自ら調理や掃除をしている状況を、笑顔とユーモアを交えて話しますが、介護職場の大変な現状を突き付けられた思いがしました。

今、学校の先生は生徒に対して介護職場への就職を勧めないと言います。全国の学校に講演で出かけ

ることが多い太田氏は、介護の大変さばかりではなく、高齢者とのかかわりを通して得られる喜びや楽しさを子ども達に伝えようと、大きな手ごたえを感じると強調します。

子どもたちの未来のためにも、もっと介護に関心を持ってもらいたいとの思いで、現在、地域の社協などの職員と一緒に劇団を作り、学校での上演を行う予定とのことでした。多くの人に聞いていただきたいお話でした。



10月以降の社会保障に関する取組み

- 「#いのちまもる 医療・社会保障を立て直せ！10.22 総行動」
日時：10月22日（木）13：00～14：20
会場：Webによる視聴・地域行動
「日比谷野外音楽堂」集会 Web 配信
- 「コロナ禍での“介護崩壊”を許さない！」
日時：10月25日（日）13：30～16：00 ZoomとYouTubeで視聴可能
記念講演：「制度発足20年の現実から介護保険を問い直す
ーコロナ禍から安全・安心の介護保障を考えるー
講師：井口 克郎氏（神戸大学大学院准教授）
- 「コロナ禍後の日本の課題～誰もが生きられる社会へ～」
日時：11月7日（土）14：00～16：00 Web視聴可能
会場：日本労協連会議室
基調講演：「コロナ禍後の日本の課題～誰もが生きられる社会へ～」
講師：西谷 修氏（東京外国語大学名誉教授）
- 2020年「介護・認知症なんでも無料電話相談」
日時：11月11日（水）10：00～18：00 詳細は後日お知らせします。
電話：フリーダイヤル 0120-110-458
- 第11回 地域医療を守る運動全国交流集会
日時：11月23日（祝）10：30～16：00
会場：日本医療労働会館 Web(Zoom)開催
記念講演：「コロナ禍の日本～全世代型社会保障政策を撤回し、安心・安全の地域社会を」
講師：芝田 英昭氏（立教大学コミュニティ福祉学部）